



「広東・香港・マカオ大湾区発展計画」における香港の位置づけについて ～イノベーション・テクノロジー、物流の観点から～

2024年5月の香港だよりでは、「広東・香港・マカオ大湾区（以降、大湾区）発展計画」とその概要についてご紹介いたしました。今回は、大湾区発展計画における香港の位置づけについて、イノベーション・テクノロジーと、物流の観点からご説明いたします。



熊本香港事務所
宮原 智彦

1. イノベーション・テクノロジー

(1) 重点分野および施設

香港政府は、イノベーション・テクノロジーの重点分野として、スマートシティ、情報通信技術、エレクトロニクス、人工知能・ビッグデータ、ロボティクス、グリーンテクノロジー、バイオテクノロジー、新素材等を挙げており、2017年以降、イノベーション・テクノロジーの発展のために1,300億香港ドル（2兆6000億円相当）を超える投資を実施しています。

香港には、香港サイエンス・テクノロジーパーク、香港サイバーポートを始め5つの研究開発センターを設け先端テクノロジーをサポートする体制を整えており、こうした施設内では、スタートアップ企業と香港の大学（英国タイムズ社の The Time Higher Education が発表した2024年大学ランキングの100位以内には香港の大学5校がランクイン、日本は東大、京大の2校のみ）の産学協同の研究開発も多く行われています。

そして、こうした活動には補助金や税制面での優遇、また政府系ファンドの出資などのサポートがあり、香港に拠点のある企業であれば海外企業でも活用することが可能です。

図表1 HSITPの完成予想図



出所：HSITPホームページ

(2) 香港・深圳イノベーション&テクノロジーパーク

さらに香港政府は、イノベーション・テクノロジーパーク（HSITP）の開発を進めています（図表1）。これは単にイノベーション拠点を開発するのみでなく、巨大な住宅・商業エリアを開発し、香港南部に集中している都市機能を北部に分散させる「北部都会区」の核として、この地域に5万人規模の新たな雇用を生み出し、大湾区構想に貢献する役割が期待されています。また、企業に必要となる法律、会計、エンジニア等の専門資格を広東・香港・マカオの3地域で取得できる「大湾区資格」を推進しています。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)